



WRCラリージャパン2007

田口勝彦、WRCグループN  
優勝を達成!

# 2008年ダカールラリー 第30回記念大会に挑む。

8連覇・通算13勝目を目指し  
「チーム・レプソル三菱ラリーアート」発進



RALLY  
ART  
JOURNAL

## ひとつの時代に区切りをつけ、新たな時代の始まりを飾るべき勝利を求めて。

三菱自動車が「砂漠の王者」たる強さを改めて見せつけた2007年大会から早くも1年近く。季節は再びめぐってきた。

今回で30回目の記念すべき節目を迎えることとなったダカールラリー。この世界最大規模のモータースポーツイベントに、三菱自動車は「チーム・レプソル三菱ラリーアート」を組織し、4台の三菱パジェロエボリューション (MPR13) を送り込む。ドライバーは、エースドライバー・増岡浩を筆頭に、ステファン・ベテランセル、リュック・アルファン、ホアン・ナニ・ロマという2005年大会以来不動のラインナップだ。

もちろん目指すのは総合優勝。それは三菱自動車にとって、最多勝記録をさらに更新する8年連続・通算13回目の栄冠となる。だがそれだけではない。ひとつの時代に区切りをつけ、新たな時代の始まりを飾るべき勝利となるのだ。

三菱自動車は現在、新世代クリーンディーゼルエンジンの開発最終段階にあり、併せて、同エンジンをベースとしたラ

リーエンジンの開発も押し進めている。次回の2009年ダカールに三菱自動車は、この新型クリーンディーゼルエンジンを投入する計画であり、ガソリンエンジン車によるワークス活動は今回の2008年大会でひと区切りをつけることになる。

さらに三菱自動車では、エンジンの一新と同時に、それを搭載する車両もまったく新しいモデルへと発展させることを計画している。つまり、初出場の1983年大会以来、砂漠で栄光を勝ち取り続けてきた『パジェロ』にとって、今回のダカールはワークスカーとして最後の出番となるのである。

「三菱自動車にとって、ダカールラリーはパジェロの歴史そのものでした。2008年大会は、その集大成として挑みたい。そして2009年大会からは、まったく新しいチャレンジを行っていきたくと考えています」と、三菱自動車の益子修社長は力強く語っている。

極めて重要な一戦となる2008年ダカールラリー。だがも

ちろん、楽な戦いなど見込めるはずがない。年々競争力を増しながら三菱自動車に苦杯を嘗めさせられ続け、その雪辱に燃えるフォルクスワーゲン (VW) は、今回も強力なライバルとして立ちふさがってくるだろう。BMWもチーム体制を強化しているほか、軽量なバギー勢も依然侮れない。

さらに今大会では、エンジン吸気量を制限するリストリクターの口径が1mm小径となる変更があった。これはガソリン、ディーゼルともに等しく取られた措置だが、そもそもVWやBMWが使うディーゼルエンジンのリストリクター径は有利に設定されており、今回の変更は三菱自動車を使うガソリンエンジンに格段に厳しく影響してくるものだ。

ハンディをさらに課されながらも、三菱自動車の開発陣は粘り強い開発を続けてきた。改良に改良を重ねてきた6G7型V6MIVECエンジンの低速トルクをさらに強化させ、車体側のリファインも進めて、2007年仕様を上回る総合性能を

確保するに至った。また今回大会では、タイムを争う競技区間 (SS) の合計距離が前回より約1300kmも長いものとなり、三菱自動車が例年覇権を握ってきた難関・モーリタニアでの戦いは8日間にも及ぶ。戦いがよりタフなものとなることは必至。三菱自動車にとっては、まさに望むべきところだ。

「パジェロに有終の美を」

三菱自動車は全力で、26年目のダカールラリーに挑む。

### サポートカーにアウトランダー投入 田口勝彦が再びドライブ



チーム・レプソル三菱ラリーアートはそのサポートカーの1台に「アウトランダー」を投入。昨年の「デリカD:5」に続いて、田口勝彦が全行程で同車のドライバーを務める

## チーム・レプソル三菱ラリーアート 出場体制

■チーム監督:ドミニク・セリエス ■メインスポンサー:レプソル (スペインに本拠を置く石油会社)

### 増岡 浩

■出身:埼玉県 ■年齢:47歳  
■コ・ドライバー:バスカル・メモン (フランス)  
■2002&2003年ダカールラリー4輪部門 総合優勝  
2001&2004年ダカールラリー4輪部門 総合2位

### ステファン・ベテランセル

■出身:フランス ■年齢:42歳  
■コ・ドライバー:ジャン・ポール・コトレ (フランス)  
■2004&2005&2007年ダカールラリー4輪部門 総合優勝  
ダカールラリー2輪部門 総合優勝6回

### リュック・アルファン

■出身:フランス ■年齢:42歳  
■コ・ドライバー:ジル・ピカール (フランス)  
■2006年ダカールラリー4輪部門 総合優勝  
1997年アルパンスキー ワールドカップチャンピオン

### ホアン・ナニ・ロマ

■出身:スペイン ■年齢:35歳  
■コ・ドライバー:ルーク・センラ・クルス  
■2004年ダカールラリー2輪部門 総合優勝  
2006年ダカールラリー4輪部門 総合3位



### 出場車両

#### 三菱パジェロエボリューション (MPR13)

三菱自動車が2008年ダカールラリーに送り込むのは、前回大会で1-2フィニッシュを飾ったMPR13モデルの改良型。徹底的な低重心化が図られた車体に、排気量3997ccのV6MIVEC自然吸気ガソリンエンジンを搭載。旋回性、高速安定性、砂丘などの悪路走破性とともに、耐久性や整備性も高度に確保。三菱自動車の技術の集大成といえる、最新鋭のクロスカンントリーラリーカーである



前回大会に続き、チーム三菱ラリーアート・チャイナ (リュウ・ビン選手/パジェロ/左写真)とチーム三菱ラリーアート・タイランド (マナ・ボンリ選手/トヨタ/右写真)が、三菱自動車/ラリーアートがサポートするサハラチームとして参戦する。なおチャイナの名義監督は、俳優のジャッキー・チェン氏が務める

### ダカールラリー前哨戦 UAEデザートチャレンジを快勝!



ダカールラリーの前哨戦として注目のFIAクロスカンントリーラリー第5戦UAEデザートチャレンジが開催され、MPR13で出場したステファン・ベテランセルがVW勢を抑えて総合優勝。リュック・アルファンも一時ラリーをリードするスピードを見せて、ダカール本番に向けた三菱自動車チームの良好な仕上がりを印象づける内容と結果になった

三菱自動車の2008年ダカールラリー情報はこちらから  
→三菱自動車ダカールラリー公式サイト  
<http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/f/08dakar/index.html>  
→三菱自動車ダカールラリー携帯電話向けサイト  
<http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/e/08dakar/mobile/>  
→ダカールラリー応援キャンペーンサイト  
<http://www.mitsubishi-motors-gogo-dakar.jp>

## DAKAR RALLY 2008 Preview

# パジェロに栄冠を。

第30回ダカールラリー記念大会は三菱パジェロ・ワークスカーのラストラン  
パジェロエボリューション4台体制で8年連続・13回目の総合優勝を目指す

### 2008年ダカールラリー開催概要

■スタート:2008年1月5日 (土) ポルトガル・リスボン  
■通過国: ポルトガル→スペイン→モロッコ→モーリタニア→セネガル  
■ゴール: 2008年1月20日 (日) セネガル・ダカール  
■SS数:15 ■SS合計距離:5,736km ■総走行距離:9,273km

3年連続でポルトガルの首都リスボンをスタート地とし、SS数も前回大会と同様だが、アフリカ大陸でのステージ構成が大きく変わり、モーリタニアの砂漠地帯での走行距離が格段に増加。総走行距離、SS距離ともに約1300kmも長くなり、一層過酷な戦いが予想される





三菱ランサーエボリューション  
WRCラリージャパン グループN

# 完全制覇。

田口勝彦、圧倒的スピードでWRCグループN初優勝を母国で達成  
PWRCはガブリエル・ポッツが制し、  
三菱ランサーエボリューション勢が十勝を席卷



過去のラリージャパンでかかってきた不運を蹴散らせる、まさに快心の勝利。「かなり安全マージンを残しながら走っている」と言い、後半はさらにペースを抑えながらも、計6か所でトップタイム。いまのKATSUのレベルは恐ろしく高い

「KATSU」がその名を改めて世界に轟かせた。

4年目の開催を迎えたラリージャパン。今年もPWRCが併催されたこの一戦で、田口勝彦はオープニングステージからグループNの首位を奪うと、一度もそのポジションを譲ることなくフィニッシュ。世界のトップランカーたちを一蹴し、グループN総合優勝を勝ち取ったのだ。

過去3回の母国WRCへの挑戦では、トラブルやアクシデントによって、ことごとくリタイアを余儀なくされてきた苦い記憶がKATSUにはある。だがその実、一昨年、昨年と、ともにPWRC勢を相手にグループNのトップ争いを演じてきている。勝利の美酒がおあずけとなってきたのは、あとわずかの運がなかったため、と言うほかない。

しかしながら、今回は完璧だった。KATSUはSS1から一気に3連続ベストを叩き出し、第1レグ前半を終えた時点ですでに後続に12.9秒のリードを奪っていた。

一方、ラリーそのものは大荒れの様相。マールクス・グロンホルム選手とセバスチャン・ローブ選手という、WRCチャンピオンをかけて争うふたりがクラッシュ。PWRCにおいても、注目の若手であるパトリック・フローディン選手、スバルの新井敏弘選手、そして三菱ランサーエボリューション勢の筆頭である奴田原文雄選手と、トップに立ったドライバーが次々にリタイアしていく異様な展開となった。

速さも実力もある者たちこそ、アクシデントに見舞われていった。勝負が極度に高次元化した現在のWRC/PWRCでは、それほどまでに攻めていかなければ勝てない、と理解すべきだろう。

コースアウトと紙一重のハードなドライビングを繰り返した

ップドライバーたち。そんな彼らに対して、KATSUは他を圧倒するスピードを終始見つけた。しかも「無理はしてませんよ」と言い、事実、一本のバンクすら喫することがなかった。第2レ

グ半ば以降は、後続とのギャップを見ながらペースを調整して走行。それでも、1分をゆうに越える大差を保ったままゴールを迎えたのである。

KATSUに続くグループN総合2位、そしてPWRC優勝を得たのは、やはりランサーエボリューションに乗るガブリエル・ポッツ選手。安定したドライビングを続けて、PWRCでは実に5年



三菱自動車/ラリーアートでは例年同様にユーザー支援活動を実施。十勝研究所の施設内道路を使った事前テストを実施したほか、ラリー中はサビスパーク内にホスピタリティースペースを開設して食事や休憩の場を提供した



- 1 競技車両の直前にコースを走行し安全確認を行う大会のオフィシャルカーとして登場した新型ランサーエボリューションX。三好秀昌選手のドライビングで重責を完遂した。
- 2 マーク・ヒギンズ選手は直前に肩を負傷。痛みをこらえて完走を果たし、PWRCチャンピオン獲得の可能性を残してみせた。
- 3 注目のフライングフィン、ユホ・ハンニネン選手はSS7でコースアウトを喫し、第2レグ以降はスーパーラリーに回りながらも、計9回の最多トップタイムを奪取。
- 4 奴田原選手は無念。しかしリタイア時点ではPWRCトップに立ち、スピードと存在感は改めて示した。
- 5 アルミン・アラウージュ選手は後半素晴らしい追い上げを見せて2位でフィニッシュしたが、再車検で失格の裁定が下る。
- 6 今年は散発的なラリー出場ながらも、石田雅之選手はPWRC勢の多くを凌駕する速さと安定感を見せた



2002年の母国アルゼンチン以来となるPWRC優勝を獲得したポッツ選手。新井選手のリタイアもあって、2戦を残すシリーズのチャンピオン争いにおいても息を吹き返すこととなった



WRC第12戦ラリー・スペイン  
グループN優勝:アンドレアス・アイグナー  
非PWRC開催イベントながら出場したPWRCレギュラーのアイグナー選手が2位以下に5分以上の大差を築いて快勝。ランサーユーザーがグループNの1位から6位までを独占した



PWRC第7戦ラリー・アイルランド  
PWRC2位:ガブリエル・ポッツ  
WRC初開催の舗装路イベントだったが、ターマックは不得意と見られていたポッツ選手が意地の2位に。最終戦グレートブリテンで優勝を果たせば、逆転でタイトル獲得となる

ぶりとなる勝利を勝ち取った。

残念だったのは奴田原選手だ。PWRCのトップを突っ走っていた第2レグ半ばのSS14、赤黒のランサーエボリューションは下りの右コーナーで大きくスライドし、車両の側部がガードロープの支柱に激突。サスペンションのトレリングアームが折れて走行不能となり、リタイアに追い込まれてしまったのだ。その2つ前のSS12で、奴田原選手はエンジンがストールし約20

秒を失っていた。それを取り返そうとプッシュしていった結果のアクシデントだった。

なお、ポッツ選手に続くグループN総合3位には石田雅之選手が入賞。北海道での国際ラリーでは毎回上位に食い込んでくることで知られるが、今回はPWRCの2位以下すら抑え込んでみせており、全日本ドライバーの実力の高さを海外エントラントにも改めて印象づけることとなった。

こうした各ユーザーの奮闘の結果、三菱ランサーエボリューションはグループNで圧巻の1-2-3フィニッシュを達成。また、新型ランサーエボリューションXのグループN仕様車が大会のゼロカー/ダブルゼロカーとして活躍するなど、4年目のラリージャパンは三菱自動車にとって大成功のイベントとして幕を閉じたのである。



増岡 浩 連載コラム

# 砂漠への招待状。

vol.11

## パジェロの有終の美は、ぜひとも僕の手で。

僕にとって21回目のダカールラリーが目前に迫ってきました。今回はいつも増して、気合いが入っています。ダカールとしては通算30回目の記念大会、そしてパジェロがワークスカーとして出場する最後のラリーになるからです。パジェロとの最初の出会いは、国内のオフロードレースでした。注目の新型車として登場したパジェロは、当時僕が乗っていたジープのチャンピオンカーよりいさなり速かった。強烈な印象でしたね。それから、まさに苦楽をともにしてきた、という感じで、パジェロが僕を育ててくれたと言っても過言でない、という気持ちです。

前回のダカールラリーを終わってからというもの、2007年の僕はひたすらテスト走行をこなしてきました。そして、その3分の2は、実は新開発のディーゼルトーポエンジンのテストだったんです。実際、そのトルクは凄いですよ。「俺たちは、こんなエンジンを使っていたライバルと戦ってきたのか!？」と思わずにはいられなかったのが本音です(笑)。まだまだテスト段階だし、初めて開発する新世代ディーゼルのラリーエンジンなのに、完成度も現時点ですごく高い。三菱自動車の技術力を改めて思い知らされた気持ちでした。

ただ、ターボやインタークーラーなど、これまで使ってきた自然吸気エンジンにはなかった要素があるので、それに合わせて設計した車体を組み合わせないと、100%のポテンシャルは出せない、過酷なラリーをハイペースで戦い抜けるマシンに

はなりません。たとえばフォルクスワーゲンにだって、何年もディーゼルで戦ってきているのに、まだ一度もダカールでは勝ってないわけで、速さと信頼性の両立はそれほど難しいということなんです。ディーゼルのダカール初優勝はぜひ僕らの手で勝ち取りたい。そのためには今度のラリーも勝たないと話にならない。その2008年のダカールは、走行距離が約1300kmも長くなり、モータリニアでの競技が8日間もあったり、前回VW勢が脱落していったマラソンステージが2度もあったりと、ここ最近では一番ハードな設定になっています。こうしたことから、信頼性の高いガソリンエンジンで勝負しようということになったんです。先日のUAEデザートチャレンジの内容からしても、僕らの選択は間違っていないかと思うし、かなりの勝負ができると確信しています。

僕としては、ワークスカーとして最後の出番となるパジェロをダカールまで運んで、フィニッシュランの上でシャンパンをか

けてやりたい。パジェロの有終の美、つまり優勝は、ぜひ僕の手で飾りたいと思っています。ご声援をどうぞよろしく願います! では、行ってきます!

Profile: 1960年3月13日、埼玉県生まれ。1987年から三菱自動車チームよりダカールラリーに参戦。2002年、2003年と2年連続で総合優勝を飾っている世界を代表するプロフェッショナル・クロスカンントリー・ラリードライバー



11月30日には三菱自動車参戦発表会と、僕の社行会が行なわれ、多くの方が駆けつけてくださいました

# 36 LANCER EVOLUTION in Rally Japan 2007

その数、実にラリージャパン全エントリーの半数近く。さらにオフィシャルカーとして新型エボリューションXも登場  
晩秋の十勝を彩った、総勢35台+1台の三菱ランサーエボリューションの競演



無念のAPRC最終戦となったKATSUだが、併催のCRCを優勝請負人として戦ってきたヒギンス選手やマティン・ロウ選手といった世界のトップランカーたちを寄せ付けない速さを示した

## APRC

FIA ASIA-PACIFIC RALLY CHAMPIONSHIP 2007

FIAアジア・パシフィックラリー選手権

### KATSU、最終戦チャイナは痛恨のリタイア APRCランキング3位でシリーズを終える

ラリージャパンを快勝した田口勝彦は、中国の荒れたグラベルでも速さを発揮。後続を置き去りにしながら、スバルのコディ・クローカー選手と優勝をかけての一騎打ちを繰り広げた。しかし、第1レグ終盤のSS8で、KATSUは痛恨のコースアウト。さらにチームメイトのユッシン・ヴァリマキ選手とガウラフ・

ジル選手の2台は、粗悪燃料によって相次いでエンジンが破損しストップ。同じ燃料を使っていたKATSUにも遠からず起こったはずのトラブルだった。ラリー中の燃料変更はできないことから、チームは全3台の第2レグへの再出走を断念。その結果、シリーズランキングは、ヴァリマキ選手が2位、KATSUが3位というオーダーで決着した。

なお、ラリーは三菱ランサーエボリューションのデビッド・ヒギンス選手が総合2位に入り、併催の中国ラリー選手権 (CRC) およびインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジ (IRC) 双方での優勝を果たした。



11回目!

田口勝彦 連載コラム

## KATSUの | い | つ | だ | っ | て | エ | ボ | リ | ュ | ー | シ | ョ | ン |

### ラリージャパンはまさにパーフェクト! 気持ちいい~

やりました! みなさんのご声援に支えられて、ラリージャパンのグループN優勝を果たすことができました。しかも、最初から最後までトップを走り続けて、トラブルやパンクも一切ナシのパーフェクトウイン! うまくいきすぎて、ちょっと怖いくらいでした。

ラリージャパンって、僕にとっては少し特殊なイベントです。シリーズで戦っているわけじゃないし、それでいてたくさんの方が応援して下さいますから、特に過去2年は普通のAPRCよりも安全マージンを大きく取って走って

きたんです。それでも、去年にだってきっちりとトップ争いができていたわけで(予想外のアクシデントが起こって、結果はリタイアでしたけど)、今回のラリージャパンについても自信はあったんですよ。密かに。

現在のAPRCは、とにかく全開勝負の連続。それでもなかなか勝てないほどなんですけど、そんなシリーズを戦い続けてきて、マシンも僕自身もPWRC勢に引けを取るはずがないと信じていました。もちろん今回も、APRCほどのリスクを負ったアタックを仕掛けていくつもりはなかったんですけど、それでもかなりの



特にドライブしているのは高速から一気に減速して抜けていくような区間のドライビング。フロントタイヤの使い方がキモなんです

僕自身やマシン、チームの実力がこれまでになく上がった。とても有意義な一年でした



こちらの結果は何とも残念なことになってしまいました。でも、新しく取り組んでいるドライビングテクニックが中国の狭くて荒れたステージでも通用することが確認できたし、反省点も多く見つかったし、自分としては収穫は多かったですね。これは今シーズン全体に言えますね。僕ら「チームMRFタイヤ」の競争力は格段に上がってきたと自負しています。戦っている手応えが去年とは全然違いました。それでも勝てなかったのが勝負の厳しいところですけど、それだけやりがいもあるってわけです。

ところで、ひとつお知らせです。来年のダカールラリーで「チーム・レプソル三菱ラリーアート」のサポートカードライバーを再びやることになったんです。しかも今回走らせるのはアウトランダー。どんな旅が待っているのが楽しみですけど、三菱自動車チームがまた栄冠をつかめるように、しっかりとサポートしていきたいと思っています。

■田口勝彦オフィシャルホームページ  
<http://www.ralliart.co.jp/katsu/>

Profile: 1972年2月7日、岡山県生まれ。22歳より海外に渡り、ランサーエボリューションで国際ラリーの経験を積んできた。1999年にはAPRC総合チャンピオンを獲得。株式会社ラリーアート社員



昨年はトップと2点差のランキング2位と、ほんのわずかな差に苦戦を奮めさせられていたN3クラスの吉村修選手。奮闘を期した今年はシーズンを通じて良好なリザルトを残し続け、ついに移転の全日本タイトルをつかんだ。

# ALL JAPAN DIRT TRIAL CHAMPIONSHIP

■全日本ダートトライアル選手権

## 三菱ランサーエボリューション3クラスで全勝&タイトル獲得

オフロードコースで各車2回のタイムアタックを行い、ベストタイムを競い合うダートトライアル。この超集中型のスプリント勝負に魅了されているファンは数多い。

その最高峰に位置する全日本ダートトライアル選手権の2007年シーズンは計9クラスが全8戦で開催され、ランサーエボリューションのみならず、コルト、ミラージュ、FTOなど、新旧の三菱車ユーザーが7クラスに出場。そして3クラスにおいて全戦優勝を果たしチャンピオンを獲得するという活躍を見せた。

市販車のパフォーマンスでそのまま戦うN3クラスではランサーエボリューションが圧倒的なシェアを獲得。そし

て3年連続でランサー勢が全戦優勝を成し遂げるとともに、シリーズ上位13位までを占める結果となった。その中でチャンピオンを獲得したのは、計3勝を挙げた吉村修選手。ダートトライアル歴27年目にして勝ち取った初の全日本タイトルとなった。

ナンバー付きながらN車両より改造範囲が広いSA車両で争われるSA2クラスでは、荒井信介選手が5勝をマーク。昨年まではN3クラスを戦ってきた荒井選手だが、クラスをスイッチしながらも3年連続でタイトルを奪うというずば抜けた強さを見せた。

全クラスを通じて最も白熱したチャンピオン争いが繰

り広げられたのが改造無制限のDクラスだ。ランサーの宮入友秀選手と三上悟選手、ミラージュを駆るディフェンディングチャンピオンの河内渉選手が、三つ巴の争いを最終戦まで展開。最後の一大一番で宮入選手が4勝目を叩き出し、初の王座へと上り詰めることとなった。

このほか、手軽なモータースポーツベース車両として注目のコルトが今シーズンから全日本選手権にも登場し、最終戦のN1クラスでは平田朋也選手が5位に入るなど、ポテンシャルの高さも証明。三菱自動車/ラリーアートでは、このエキサイティングなダートトライアル競技を今後も様々な形でサポートしていく計画である。



マシンが仕上がってきたシーズン後半は怒濤の4連勝をマーク。その底力を改めて見せつけたSA2クラスの荒井信介選手は、通算5度目の全日本タイトルを獲得



若手のD車両使いとして注目されて3年目。最終戦でもつれ込んだ三つ巴のタイトル争いを優勝で制し、宮入友秀選手がついにチャンピオンの座をつかんだ



シーズン後半は荒井選手の巻き返しに遭って昨年ランキング2位となったSA2クラスの北島広実選手だが、3連勝をマークした前半戦の勢いは見事だった



ハイパワーの改造車両で争われるSC3クラスに挑み続ける岩山善昭選手。第3戦と第6戦では接戦を制して優勝をさし、シリーズでは2年連続でランキング2位に



N3クラス3年目となった田崎克典選手。安定して高得点を重ねた吉村選手には屈かかったが、計2勝を奪い、過去2年より順位をひとつ上げランキング2位に



全戦で表彰台に上る活躍を見せた三上悟選手。タイトルには届かなかったものの、計3勝を叩き出し、河内渉選手を4ポイント差で下してランキング2位を得た

# JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP

■全日本ラリー選手権



今年は運に恵まれなかった奴田原選手。最終ランキングは4位

## 奴田原文雄選手が待望の今季初優勝

6年連続チャンピオン獲得はならなかった奴田原文雄選手だが、第9戦ハイランドマスターズで待望の今季初優勝をマーク。このラリーでは過去8年で6勝を挙げた圧倒的な強さを改めて発揮してみせた。さらに今季3戦目の出場となった岩下英一選手が、日中に行われた5SSのうち4カ所でトップタイムを奪う速さを披露し2位に食い込んでいる。

ターマックイベントの最終戦新城ラリーでは奴田原選手の2位が三菱車ユーザーのベストリザルト。そしてシリーズランキングでは石田正史選手の3位が最上位となった。



伝統のグラベルで速さを見せ自己ベストの2位を得た岩下選手



最終戦ではスポット参戦の徳尾慶太郎選手が3位と勢を上げた

# ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP

■全日本ジムカーナ選手権



尻上がりにパフォーマンスを上げてきた津川選手。最終戦も快勝

## 三菱勢、最終戦も3クラスで完勝

他のカテゴリよりも早くイベントを消化していった全日本ジムカーナ選手権は、9月下旬に最終戦を福岡県のモビリティおおむたで開催。N4クラスでは、すでに4年連続チャンピオンを確定させていた茅野成樹選手がまたも抜群の勝負強さを見せて圧巻の今季8勝目をマーク。SA3クラスでは、津川信次選手が前戦に続く連勝を飾り、最終ランキングでも川脇一寛選手を逆転して2位に食い込むこととなった。またSCクラスは、6年連続チャンピオンを確定させていた谷森雅彦選手が今季6勝目を挙げて有終の美を飾っている。



トラバに襲われた第7戦以外はすべて優勝を奪った茅野選手



6年連続でタイトル獲得の谷森選手。再び通算記録を伸ばすか

# SUPER TAIKYU SERIES

■スーパー耐久シリーズ



不確定要素の多い耐久レースシリーズでの全勝はまさに偉業

## 木下選手組が圧巻の全戦優勝を達成

三菱ランサーエボリューションがまた新たな金字塔を打ち立てた。木下隆之/中谷明彦選手組がシリーズ7戦すべてで優勝を果たすという圧倒的な強さを見せてシーズンを締めくくったのだ。特にツインリンクもてぎで開催された最終戦は雨に見舞われ、木下組が前半で選んだタイヤはベストマッチせず苦しいものの、セーフティカーのタイミングを巧みに利用してポジションアップ。レース中盤にはトップに立ち、全戦優勝という快挙を成し遂げた。なおこの勝利は木下選手にとってスーパー耐久通算50勝目となった。



2位とは3点差のランキング3位に食い込んだ和田久選手組



ランキング4位とエボワゴンの高性能を示した西村元気選手組

### 2007年9月~11月 海外/国内モータースポーツ主要結果表

# RESULT

#### ■FIA世界ラリー選手権 (WRC)

第12戦	ラリー・スペイン	10/5~7日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	S.ロブ/ D.エレナ	シトロエン
2	D.ソルト/ M.マラチ	シトロエン
3	M.スバル/ G.スズキ	フォード
4	M.ヒルボーン/ J.レーチン	フォード
5	T.ペナル/ P.ミルズ	シトロエン
6	P.ソルベルグ/ P.ミルズ	スバル

第14戦	ラリー・ジャパン	10/26~28日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	M.ヒルボーン/ J.レーチン	フォード
2	D.ソルト/ M.マラチ	シトロエン
3	M.スバル/ G.スズキ	フォード
4	M.ヒルボーン/ J.レーチン	フォード
5	T.ペナル/ P.ミルズ	シトロエン
6	G.ワイルクス/ P.アプ	スバル

#### ■全日本ジムカーナ選手権 N4クラス

第9戦	モビリティおおむた (福岡)	9月23日
順位	ドライバー	メーカー
1	茅野 成樹	三菱自動車
2	津川 信次	三菱自動車
3	岩下 英一	三菱自動車
4	宮入 友秀	三菱自動車
5	三上 悟	三菱自動車
6	岩下 英一	三菱自動車

#### ■全日本ダートトライアル選手権 N3クラス

第8戦	チノクスター・ジータカ (広島)	10/7日
順位	ドライバー	メーカー
1	吉村 修 (CMSC大塚)	三菱自動車
2	山崎 光司 (CMSC千原)	三菱自動車
3	田崎 克典	三菱自動車
4	岩山 善昭	三菱自動車
5	谷津 直樹 (CMSC大塚)	三菱自動車
6	田崎 克典	三菱自動車

#### ■FIAプロダクションカー・世界ラリー選手権 (PWRC)

第6戦	ラリー・ジャパン	10/26~28日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	G.チン/ D.スティーロ	三菱自動車
2	シカジャ/ C.バーリー	スバル
3	藤田 幸彦/ 藤田 幸彦	スバル
4	E.グロスト/ F. G. ロシュエ	三菱自動車
5	M.ヒルボーン/ M.スミス	三菱自動車
6	P.ロウレンソン/ M.アンダーソン	スバル

第7戦	ラリー・アムステル	11/16~18日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	N.マクアヘア/ M.クック	スバル
2	G.チン/ D.スティーロ	三菱自動車
3	N.アブアサ/ G.ロウレンソン	スバル
4	S.カネパ/ R. D. ヴァーニ	三菱自動車
5	S.アスタキ/ M.エムント	三菱自動車
6	奴田原 文雄/ D.バリスト	三菱自動車

#### ■全日本ジムカーナ選手権 SA3クラス

第9戦	モビリティおおむた (福岡)	9月23日
順位	ドライバー	メーカー
1	岩下 英一	三菱自動車
2	岩田 竜也	ホンダ
3	岩下 英一	三菱自動車
4	岩田 竜也	三菱自動車
5	岩下 英一	三菱自動車
6	岩田 竜也	三菱自動車

#### ■全日本ダートトライアル選手権 SA2クラス

第8戦	チノクスター・ジータカ (広島)	10/7日
順位	ドライバー	メーカー
1	荒井 信介 (CMSC大塚)	三菱自動車
2	北島 広実 (CMSC千原)	三菱自動車
3	岩田 正文 (CMSC大塚)	三菱自動車
4	高橋 裕	三菱自動車
5	大竹 公二	三菱自動車
6	上村 哲也	三菱自動車

#### ■FIAアジア・パシフィック・ラリー選手権 (APRC)

第7戦	チャイナラリー	11/10~11日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	C.ロウレンソン/ B.アキンソン	スバル
2	D.ヒルボーン/ M.トーマス	三菱自動車
3	L.ワグネル	三菱自動車
4	C.ワグネル/ M.マコラ	スバル
5	J.サロ/ M.スミス	スバル
6	M.ロウ/ M.スミス	三菱自動車

#### ■FIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ (CCR)

第3戦	UAAPサート・チャレンジ	10/28日~11/2日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	S.ベラン/ S.ベラン	三菱自動車
2	C.サインツ/ M.ペラン	VW
3	G.ドナルド/ E.ドナルド	VW
4	L.ヒルボーン/ B.ヒルボーン	三菱自動車
5	T.アムステル/ A.アムステル	三菱自動車
6	N.キーン/ B.カトリ	三菱自動車

#### ■全日本ダートトライアル選手権 SC3クラス

第9戦	モビリティおおむた (福岡)	9月23日
順位	ドライバー	メーカー
1	岩下 英一	三菱自動車
2	岩田 竜也	ホンダ
3	岩下 英一	三菱自動車
4	岩田 竜也	三菱自動車
5	岩下 英一	三菱自動車
6	岩田 竜也	三菱自動車

#### ■全日本ダートトライアル選手権 Dクラス

第8戦	チノクスター・ジータカ (広島)	10/7日
順位	ドライバー	メーカー
1	宮入 友秀 (CMSC大塚)	三菱自動車
2	三上 悟 (CMSC大塚)	三菱自動車
3	三上 悟	三菱自動車
4	山田 ひとみ (CMSC大塚)	三菱自動車
5	岩山 善昭	三菱自動車
6	高橋 裕	三菱自動車

#### ■全日本ラリー選手権

第9戦	M.C.S.ラリー・ハイランドマスターズ (愛知)	10/13~14日
順位	ドライバー/コドライバー	メーカー
1	*奴田原 文雄/ 小田切 隆之	三菱自動車
2	*岩田 竜也/ 小田切 隆之	三菱自動車
3	*岩田 竜也/ 岩田 竜也	スバル
4	*大塚 誠介/ 高橋 裕	三菱自動車
5	*天野 桂介/ 鈴木 一也	三菱自動車
6	*平塚 忠博/ 鈴木 一也	ダイハツ

#### ■スーパー耐久シリーズ STクラス2

第10戦	スーパー耐久SU600kmレース (スズラック/SUGO/600km)	10/27日~28日
順位	ドライバー	メーカー
1	木下 隆之/ 中谷 明彦	三菱自動車
2	西村 元気/ 岩田 竜也	三菱自動車
3	和田 久/ 中村 哲/ HINOKI	三菱自動車
4	岩田 竜也/ 岩田 竜也	三菱自動車
5	山口 貴幸 (CMSC山形) / 砂子島真/ 小川 日出生 (CMSC山形)	三菱自動車
6	大澤 孝/ 岩田 竜也	スバル

#### ■スーパー耐久シリーズ STクラス2

第7戦	スーパー耐久SU600km (ツインリンクもてぎ/600km)	11/10日~11日
順位	ドライバー	メーカー
1	木下 隆之/ 中谷 明彦	三菱自動車
2	吉田 勇博/ 岩田 竜也/ 川口 正敏	スバル
3	大澤 孝/ 岩田 竜也	スバル
4	和田 久/ 中村 哲/ HINOKI	三菱自動車
5	山口 貴幸 (CMSC山形) / 砂子島真/ 小川 日出生 (CMSC山形)	三菱自動車
6	細野 智幸 (CMSC栃木) / 岩田 竜也 (CMSC栃木) / 岩田 竜也 (CMSC栃木)	三菱自動車

2007年JAF全日本選手権で活躍したCMSC選手  
**CMSCから3人の全日本チャンピオンが誕生!!**  
 CMSC大阪・吉村修選手、CMSC群馬・荒井信介選手、CMSC長野・宮入友秀選手が栄冠に輝く!

2007年、三菱車を駆り様々なモータースポーツカテゴリーでコルトモータースポーツクラブ (CMSC) に所属する選手が大活躍を見せてくれました。  
 '07全日本ダートトライアル選手権では、CMSC大阪・吉村修選手がN3クラスで初のシリーズチャンピオンを獲得。  
 CMSC群馬・荒井信介選手が今季移行したSA2クラスでシリーズチャンピオン獲得(全日本タイトル3度目)。CMSC長野・宮入友秀選手がDクラスで初のシリーズチャンピオンを獲得するなど、各全日本選手権やシリーズで数多くのCMSC選手が毎戦のように上位に名を連ね、様々なモータースポーツシーンで光り輝きました。

\*CMSC(コルトモータースポーツクラブ)は、三菱車愛好者を中心としたJAF登録クラブで、東京の本部(会長:木全 巖)および全国25支部(各々独立JAF登録クラブ)から構成され、現在約700名の会員が活躍しています。

■全日本ダートトライアル選手権N3クラスシリーズチャンピオン!!

CMSC大阪 吉村修選手



車両:三菱ランサーエボリューション  
 3勝を挙げ、ダートトライアル歴27年目にして全日本の全日本ダートトライアル選手権シリーズチャンピオンを初獲得した。また'07JAFカップで優勝し、2冠を達成した。  
 '07年成績 第1戦 4位、第2戦 優勝、第3戦 4位、第4戦 優勝、第5戦 6位、第6戦 2位、第7戦 2位、第8戦 優勝



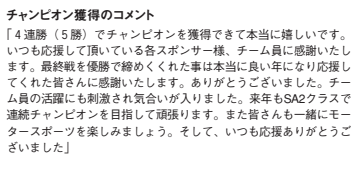
チャンピオン獲得のコメント  
 「長年の夢であった全日本チャンピオンを獲得できたことに非常にうれしく思います。去年は3連勝してシリーズチャンピオンが獲れなかったのに今年2連勝しかできなかった、今季も絶対に勝つという気持ちで臨みました。初めてダートに出場した車がヤマハ1000i (AG3H) で、全日本初優勝した車がランサーエボ1。全日本チャンピオンを獲得したのがランサーエボ1RXで、三菱車とともに歩んできたダート人生だったように思います。来年はN3クラス2連覇を目指して頑張りたいと思います。応援のほどよろしくお願いたします」

■全日本ダートトライアル選手権SA2クラスシリーズチャンピオン!!

CMSC群馬 荒井信介選手



車両:三菱ランサーエボリューション  
 4連勝を含む5連勝後、N3クラスも含めると3年連続の全日本シリーズチャンピオン獲得となった。群馬自動車社員でCMSC群馬会長を務める。  
 '07年成績 第1戦 優勝、第2戦 2位、第3戦 2位、第4戦 2位、第5戦 優勝、第6戦 優勝、第7戦 優勝、第8戦 優勝



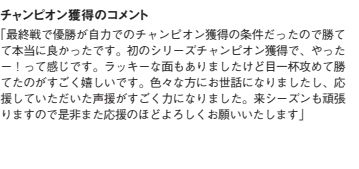
チャンピオン獲得のコメント  
 「4連勝(5勝)でチャンピオンを獲得できて本当に嬉しいです。いつも応援して頂いている各スポンサー様、チーム員に感謝いたします。最終戦を優勝で締めくくれた事は本当に良い思い出です。チーム員の方にも感謝されたいと思います。来年もSA2クラスで連覇チャンピオンを目指して頑張ります。また皆さんもコルトモータースポーツを楽しみましょう。そして、いつも応援ありがとうございます」

■全日本ダートトライアル選手権Dクラスシリーズチャンピオン!!

CMSC長野 宮入友秀選手



車両:三菱ランサーエボリューション  
 2連勝2回の計4勝を挙げ、初の全日本ダートトライアル選手権シリーズチャンピオンを獲得。'05年から日本に挑戦し3シーズン目での快挙となった。  
 '07年成績 第1戦 2位、第2戦 3位、第3戦 優勝、第4戦 優勝、第5戦 6位、第6戦 6位、第7戦 優勝、第8戦 優勝



チャンピオン獲得のコメント  
 「最終戦で優勝が自力でのチャンピオン獲得の条件だったので勝手に本場に飛べたんです。初のシリーズチャンピオン獲得で、ウタッーって感じです。ラッキーな面もありましたけど日々目標を定めてたのがすごく嬉しいです。色々なお世直しになりましたし、応援していただいた皆様がすごくかになりました。来シーズンも頑張りますので是非また応援のほどよろしく願っています」

各全日本選手権で活躍したシリーズ2位、3位のCMSC選手!!

■全日本ダートトライアル選手権

CMSC千葉 北島広実選手 SA2クラスシリーズ2位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '06年シリーズ2位で、今季序盤に3連勝や今年こそ優勝がかかったが荒井信介選手の猛追を受け惜しくもシリーズ2位となった。  
 '07年成績 第1戦 2位、第2戦 優勝、第3戦 優勝、第4戦 優勝、第5戦 3位、第6戦 3位、第7戦 優勝、第8戦 2位

CMSC福島 谷津良嗣選手 N3クラスシリーズ3位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 シリーズ出走は音程したがその後は後継者の常連で、成長著しい有望株で来季に期待。  
 '07年成績 第1戦 6位、第2戦 優勝、第3戦 2位、第4戦 3位、第5戦 4位、第6戦 4位、第7戦 3位、第8戦 4位

CMSC岐阜 榎田正文選手 SA2クラスシリーズ3位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 珍しく優勝がないシーズンとなった表彰台の常連。生涯現役ドライバーを目指す大ベテラン。  
 '07年成績 第1戦 3位、第2戦 3位、第3戦 3位、第4戦 3位、第5戦 9位、第6戦 2位、第7戦 2位、第8戦 3位

■全日本ダートトライアル選手権

CMSC広島 河内渉選手 Dクラスシリーズ3位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 開幕戦で優勝、2位6回、3位1回と強さを見せ、シリーズ最終戦までチャンピオンを争った大ベテラン。  
 '07年成績 第1戦 優勝、第2戦 2位、第3戦 3位、第4戦 2位、第5戦 2位、第6戦 2位、第7戦 2位、第8戦 2位

■全日本ジムカーナ選手権

CMSC愛知 鳥居孝成選手 SCクラスシリーズ2位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 今季成績第1、2位4回と出場した大会すべてで連続表彰台となる入賞を果たす。  
 '07年成績 第1戦 2位、第2戦 優勝、第3戦 2位、第4戦 2位、第5戦 2位、第6戦 4位、第7戦 2位、第8戦 4位

その他にも数多くのCMSC選手が各全日本選手権やスーパー耐久シリーズのモータースポーツシーンで輝きを見せ、シーズンを彩りました。以下にシリーズ4位~7位のCMSC選手を紹介します。

■全日本ラリー選手権

CMSC札幌 田中伸幸選手 JN2クラスシリーズ5位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 3位、第2戦 7位、第3戦 7位、第4戦 7位、第5戦 優勝、第6戦 7位、第7戦 優勝、第8戦 2位、第9戦 7位、第10戦 7位

■全日本ダートトライアル選手権

CMSC千葉 山野光司選手 N3クラスシリーズ4位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 3位、第2戦 3位、第3戦 11位、第4戦 2位、第5戦 2位、第6戦 17位、第7戦 5位、第8戦 2位

CMSC岐阜 赤羽敬幸選手 N3クラスシリーズ5位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 2位、第2戦 優勝、第3戦 2位、第4戦 3位、第5戦 12位、第6戦 14位、第7戦 4位、第8戦 12位

■全日本ダートトライアル選手権

CMSC岐阜 山田ひとみ選手 Dクラスシリーズ5位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 13位、第2戦 4位、第3戦 8位、第4戦 4位、第5戦 10位、第6戦 7位、第7戦 2位、第8戦 4位

■全日本ジムカーナ選手権

CMSC広島 菊田俊昭選手 Dクラスシリーズ6位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 8位、第2戦 8位、第3戦 4位、第4戦 5位、第5戦 4位、第6戦 7位、第7戦 9位、第8戦 7位

■スーパー耐久シリーズ

CMSC山形 飯口良平 / 小川日出生選手組 STクラス2シリーズ5位



車両:三菱ランサーエボリューション  
 '07年成績 第1戦 R、第2戦 2位、第3戦 5位、第4戦 R、第5戦 5位、第6戦 4位、第7戦 5位、第8戦 5位

全国に広がるCMSCネットワークは25支部。三菱車によるモータースポーツ活動を積極展開!

モータースポーツをどこでも楽しむには、モータースポーツクラブに入るのが一番。クラブに入るメリットは、「様々なノウハウを手に入れられる」、「同じ趣味を持った仲間との交流が広がる」、「アドバンスをもらえる」、「ファミリーで楽しめる」などがあります。さあ、貴方もCMSCの門をたたいて、さらにモータースポーツを楽しみ、その世界を広げてみましょう!

東北 TEL:0166-82-7122(藤田伸一:動)  
 札幌 TEL:011-812-7365(山田博之:自)  
 秋田 TEL:019-839-6918(石原隆行:自)  
 山形 TEL:0237-55-5610(小川日出生:動)  
 福島 TEL:024-531-4451(谷津良嗣:動)  
 群馬 TEL:027-361-2222(荒井信介:動)  
 長野 TEL:0267-67-8322(上野隆志夫:動)  
 千葉 TEL:043-233-6551(友野智:動)  
 茨城 TEL:0532-25-4196(津津野:動)  
 岐阜 TEL:0573-68-2030(津野博幸:自)  
 広島 TEL:0859-38-4406(平塚裕幸:自)  
 香川 TEL:087-882-4335(白井修:動)  
 鹿児島 TEL:099-262-2602(山口修:動)

もっとCMSCのことをお知りになりたい方は、是非CMSCホームページをご覧ください。  
 CMSC選手の最新の競技結果やイベントレポート、支部の活動情報など情報満載です。

皆様へ  
 皆様へ  
 皆様へ

http://www.ralliart.co.jp/cmssc/index.html

年に一度のWRC/ラリーイベント@鈴鹿  
**「第9回 鈴鹿ワールドラリーフェスタ2007」今年も盛大に開催!**



左からブルーのスパルインプレッサ2006、イエローのスイフト、レッドのランサー-WRC05の3メーカーのラリーカー

11月23日(金・祝)に三重県の鈴鹿サーキットにてラリーファン必見のイベント「第9回 鈴鹿ワールドラリーフェスタ2007」が盛大に開催されました。三菱自動車/ラリーアートも出展したこのイベントに、今年は昨年を上回る1万5000人のラリーファンが訪れ、年に一度のイベントを存分に楽しめました。

さらにダカルラリーのバジェロエボリューションデリカD5ダカルラリーサポートカー、「アジアクロスカントリーラリー2007」の青木拓磨選手のドライブ、新型ランサーエボリューションX tuned by RALLIARTなどのデモカー展示にも多くの注目が集まりました。



ラリージャパングループN優勝の田口勝彦選手のデモラン

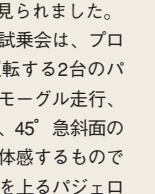
ドライブトークショーには、今回のイベントに参加したドライバー4名が登場。普段はなかなか聞くことのできない貴重なラリーの経験話や先輩後輩などのドライバー内の裏話など、終始話が絶えませんでした。またゲストトークショーには、三菱自動車 商品開発プロジェクト 藤井マネージャー、ラリーアート 木山巖ゼネラルマネージャーが登場しました。  
 ビットエリアでは、ラリーアートビット京都による人気ラリーアート商品の特別販売が行われました。新商品をタイムリーに購入できるのは、やはりこのイベントならでは。特に今回はキッズ向けのアトラクションゲームコーナーを設置したこともあり、ファミリー層の参加も多く見られました。



ダカルラリーのバジェロエボリューション (MPR12)

今回は、なんとデモ走行したランサーエボリューションX グループN仕様の新型ラリー車。子供たちはみんなにっこり。お父さんにもっこり。オリジナルステッカーのプレゼントもありました。

さらに今年も、さまざまなラリー車のカラーリングを施したレプリカカーが98台集まりました。当日はコンテストも行われ、盛大なパレードは見ごたえたっぷりでした。



特別にラリー車の運転席に座れる「キッズライド」



ラリーカー5台の呼吸の揃った演出走行

RALLIART MEMBER'S CLUB ラリーアート・メンバーズクラブ RALLIART MEMBER'S CLUB (RMC) http://www.ralliart.co.jp/rmc/



両メンバーズクラブの参加者とプロドライバーとの集合写真

RALLIART MEMBER'S CLUB / SUBARU WRC FANCLUB  
**鈴鹿サーキット合同体感走行で大満足**

鈴鹿サーキット東コースでは、RALLIART MEMBER'S CLUB(ラリーアート)とSUBARU WRC FANCLUB(STI)による「鈴鹿サーキット合同体感走行withエンジョイコミュニケーション」を実施し、ランサーエボリューションおよびインプレッサが計35台参加しました。奴田原文雄選手、田口勝彦選手らプロドライバーも参加し、初参加でも安心して走れるように、会員のクルマに側乗する慣熟走行も行いました。  
 また抽選で、プロドライバーがステアリングを握る同乗走行も実施。ラッキーなメンバーは、ストレートでのトップスピード、ブレーキングの迫りに圧倒されまくりました!  
 特に今回はドライバーとのエンジョイコミュニケーションやサブ

ビスシーンとデモランが間近で見られる特別観戦エリアやメディアセンターの休憩所などの特典も充実。特にデモランは、通常入ることのできないF1の表彰台となるエリアから観覧。この特典は会員ならではのものでは!  
 ラリーアートメンバーズクラブの集合写真  
 参加者のランサーエボリューションXやエボワゴン

Dia CARD INFORMATION

カーライフがもっと広がる  
**Diaカード会員募集中!**

三菱自動車/ラリーアートでは「三菱自動車Diaカード」、「三菱自動車ラリーアート・Diaカード」の会員を募集しています。「三菱自動車Diaカード」では、24時間ロードアシスタントサービス、ポイントバックサービス等特典があり、ETCカードの発行も可能です。また、「RMC会員証にクレジット機能がプラスされた「三菱自動車ラリーアート・Diaカード」では、上記特典のほかにRMC会員ならではの各種情報誌の送付、オリジナル商品プレゼント、通信販売での10%OFF等さらに特典がいっぱい! 詳しくは下記へ。



お問い合わせ  
 ラリーアートメンバーズクラブ事務局 ☎0120-70-5507  
 Diaカードに関するお問い合わせ先 ☎0120-00-7419

RALLIART PIT ラリーアートピット

ラリーアートピットインター川崎 1周年記念フェア

ラリーアートピットインター川崎では、オープン1周年を記念し、感謝の気持ちを込めて「1周年記念フェア」を12月8日(土)~12月26日(水)に開催。期間中はラリーアートピットのデモカーのコルトVerR、ランサーエボX、GrA スウェディッシュラリー レプリカ車等を展示します。また、先着順でオリジナルプレゼントも御用意しています。

お問い合わせ <http://streetlife.co.jp/ralliart/>

RALLIART PIT年末年始営業案内	ピット店	住所	電話番号	年末年始休業日
ラリーアートピット東京	北海道帯広市西19条北1丁目20番地	0155-33-8881	2007年12月30日(日)~2008年1月4日(金)	
ラリーアートピットHOKUSO	茨城県常総市水海道高野町336	0297-23-4810	2007年12月29日(土)~2008年1月5日(土)	
ラリーアートピットさいたま	埼玉県さいたま市西区三郷5-895-2	048-620-1221	2007年12月29日(土)~2008年1月3日(木)	
ラリーアートピットイン川崎	神奈川県川崎市高津区末長1361-1	044-850-2226	2007年12月28日(金)~2008年1月4日(金)	
ラリーアートピット京都	京都府京都市左京区岩倉西河原町205-5	075-701-5505	2007年12月31日(月)~2008年1月4日(金)	
ラリーアートピット岡山	岡山県倉敷市福江533-6	086-485-1866	2007年12月30日(日)~2008年1月4日(金)	
ラリーアートピット大阪	大分県大分市大在浜2-2-11	097-524-3751	2007年12月29日(土)~2008年1月3日(木)	
ラリーアートピット鹿児島	鹿児島県阿久根市大丸117-1	0996-72-0225	2007年12月31日(月)~2008年1月4日(金)	
テストアンドサービス	神奈川県川崎市宮前区馬場1780-6	044-854-1945	2007年12月29日(土)~2008年1月6日(日)	

# ランサーエボリューションX用パーツ、鋭意開発中



## パーツ装着車がラリージャパンでコースカーとして1500km以上を激走!

三菱自動車が発売したランサーエボリューションX用として、三菱自動車/ラリーアートはモータースポーツパーツ、スポーツパーツを開発中です。その開発中のパーツを装着したエボXのコースカーがWRC第14戦ラリージャパンに登場。総距離1573.09km (SS347.49km) を走りきりました。

今回このコースカーをドライブした三好秀昌選手は「エンジンはレスポンスがよくトルクフルです。ボディ剛性が高くしっかり感があり、サスペンションは暫定仕様であるにもかかわらずコーナリング中の姿勢が安定していてコントロールしやすい」とその感想を語っています。またコ・ドライバーの市野諒選手も「とてもトルクがあるエンジンで、スタートダッシュはまるで背中を蹴飛ばされるような感じ」と述べています。

まずは12月に発売する3つのパーツ、そして間もなくリリース予定のガード等をご紹介します。今後、競技車両、およびパーツの開発をさらに進めていき、2008年の夏頃にはホモロゲーションを取得予定、順次競技用パーツも発表します。ご期待ください。



### 新製品情報

#### ストラットタワー部の剛性を向上 「スポーツストラットタワーバー (フロント)」

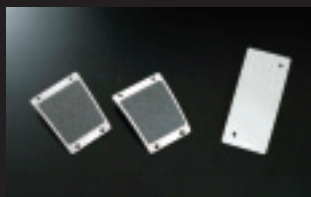
競技やスポーツ走行時等にフロント部に大きな加重がかかる際のストラットタワー部のたわみを抑え、本来のサスペンションの動きをサポートするパーツです。3点支持のアルミニウム製のバーが左右のストラットタワー部を確実に連結し剛性を向上させます。取り付けは、標準品 (スチール製) との交換で加工などは不要です。製品重量約1.2kgの軽量タイプ。シンプルかつスポーツ感を向上するシルバー色、「RALLIART」ロゴ入りです。

#### 12月25日 (火) 発売 ドライビング操作性を向上 「スポーツペダルキット リアルチタン (5MT/SST用)」

特に競技やスポーツ走行時等のドライビング時のペダル操作を確実なものにするペダルキットです。材質は、モータースポーツをはじめ、航空・宇宙産業でも使用される軽量・高強度の高級素材「チタン」を採用。アクセルとブレーキペダル、5THマニュアルトランスミッション車は、クラッチペダルを加えたセットです。アクセルペダルは標準品のペダルパッドとの交換タイプ。ブレーキ・クラッチペダルは標準ペダルへ挟み込み式 (取付用レンチ付) で滑り止め付。加工などは不要なボルトオンタイプ。「RALLIART」ロゴ刻印入り。1年間の品質保証付です。

#### 約10%の流量アップ エボX専用サーモスタット

バルブ形状を変更させリフト全域で約10%流量アップしたハイフローバルブ仕様。開弁温度は76.5℃。ランサーエボリューションX専用です。

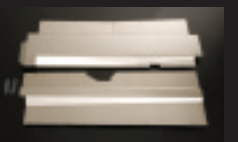


### 続々開発中! ガード類、鋭意準備中

ラリー競技の必需品。グラベル走行時のボディ下面保護用に各種ガード類等を準備しています。



アンダーガード



フロアガード



タンクガード



デフガード&プロペラシャフトガード

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考
スポーツストラットタワーバー (フロント)	RAC24406R1	25,200円(24,000円)	アルミニウム製
スポーツペダルキットリアルチタン (MT用)	RAY68005T	13,600円(13,000円)	チタニウム製、GSR専用
スポーツペダルキットリアルチタン (SST用)	RAY68006T	10,500円(10,000円)	チタニウム製
スポーツサーモスタット	RA130548N	6,300円(6,000円)	

※価格は、2007年12月現在の取付工賃を含まない希望小売価格

## EVENTS INFORMATION



※写真は2007年のオートサロンです

## 世界最大級のカスタムカーショー 「東京オートサロン2008 with NAPAC」 08年1月11日 (金) ~ 13日 (日) に開催

新年の恒例イベントとなった世界最大級のカスタムカーショー「東京オートサロン2008 with NAPAC」が、08年1月11日 (金) ~ 13日 (日)、千葉市・幕張メッセにおいて開催。ラリーアートは三菱自動車と共同でブースを設置。チューニングカーや新開発パーツを展示、パーツやグッズの販売を行う予定です。また、ラリーアート商品の特別販売&キャンペーン、ラリーアートメンバーズクラブ(RMC)会員の特別価格販売、インフォメーションコーナーなども設置予定です。

詳しい情報はラリーアート公式ウェブサイトに随時更新していきますので、ぜひチェックしてお出かけください。

東京オートサロン2008 with NAPAC 公式ウェブサイト  
<http://www.e-autosalon.net/index.html>

ラリーアート公式ウェブサイト  
<http://www.ralliart.co.jp/>

### 編集後記

感動しました、ラリージャパン。勝彦選手の最高の走りや最高の笑顔から、彼のラリーに対する情熱を感じることができました。この勢いよ、増岡選手へつなぐれ!二人の晴れやかな顔がダカールで見られることを祈っています。(小湊)

### ラリーアートジャーナル Vol.120

発行:2007年12月11日  
編集:株式会社ラリーアート  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番7号  
徳栄ビル3階  
TEL:03-3798-3971 FAX:03-3798-3979



#### ■ラリーアートパーツ2007フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアート係」

#### ■ラリーアートCOLLECTION 2007/2008 AUTUMN/WINTER請求方法

カタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」